

平成 24 年度版

協働のまちづくり大賞 事例集



平成 25 年 10 月
大 分 市

目 次

協働のまちづくり大賞について	1
----------------	---

【自治会活動部門】

24年度優秀賞

○地域で取り組む災害に強いまちづくり（真萱自治会）	2
---------------------------	---

24年度奨励賞

○元町石仏の維持管理と後世への継承（元町町内会）	4
○子ども達に「ふる里」と思ってもらえるまちづくり（高崎自治会）	6
○小規模自治会での安心安全なまちづくり（蕨野自治会）	8
○地区内の環境美化活動を通じた地域活動の活性化（廻栖自治会）	11

24年度応募事例

○町内会報でまちづくりを活性化（王子中町東自治会）	12
○新旧住民の交流・融和を図る2つの取り組み（東大道1丁目自治会）	13
○近隣者と助け合う絆づくり（荏隈町自治会）	14
○ゴミステーションの美化活動（三佐二区自治会）	15
○地域全体で取り組んだ「雄城台住宅地創立30周年記念事業」 （雄城台住宅地自治会）	16
○子ども会と連携して取り組むまちづくり （田尻グリーンハイツ東区自治会）	17
○高齢者を地域で支える仕組みづくり（ふじが丘東区自治会）	18
○自治会費削減に向けた取り組み（宮崎台自治会）	19
○「人のたがやし」で協働意識の醸成を図る（細八丸自治会）	20

【自治会連携部門】

24年度優秀賞

○農産物品評会の開催による地域内交流の促進（細区連合自治会）	21
--------------------------------	----

【自治会支援部門】

24年度優秀賞

○地域内の各種団体が連携して取り組むまちづくり （特定非営利活動法人 福祉コミュニティKOUZAKI）	23
--	----

24年度奨励賞

○ものづくりや農作業を通じて地域の連携を図る（チーム桃園）	25
○花作りを通じて地域コミュニティの再生を図る（尾津留 花愛好会）	26

協働のまちづくり大賞について

協働のまちづくり大賞は、市民の皆さまに、市内でどのような自治会活動が行われているかを知っていただき、まちづくりの参考にし、自治会の更なる活性化につなげていきたいという思いから、平成23年度に創設されました。

平成24年度は、単独の自治会での取組を表彰する自治会活動部門に14団体、複数の自治会・町内会が連携して取り組む活動を表彰する自治会連携部門に1団体、NPO法人・ボランティア団体・事業者などが自治会を支援する活動を表彰する自治会支援部門に3団体、全18団体からのご応募をいただき、その中から、特に他の模範となる優秀な活動を、優秀賞・奨励賞として表彰いたしました。

この度、平成24年度に応募のあった全ての活動事例をまとめた事例集を作成いたしました。

この事例集が、今後のまちづくりの参考となるだけでなく、今まで自治会活動に関心のなかった人たちにも自治会活動を知っていただき、関心を持つきっかけになればと考えております。

受賞団体

自治会活動部門

単独の自治会・町内会での取組

【優秀賞】

真萱自治会

【奨励賞】

元町町内会

高崎自治会

蕨野自治会

廻栖自治会

自治会支援部門

NPO法人、ボランティア団体、事業者などが自治会・町内会を支援する取組

【優秀賞】

特定非営利活動法人

福祉コミュニティ

KOUZAKI

【奨励賞】

チーム桃園

尾津留 花愛好会

自治会連携部門

複数の自治会・町内会が連携した取組

【優秀賞】

細区連合自治会

※会長名・代表者名等につきましては、応募当時の方の名前を記載しております。

地域で取り組む 災害に強いまちづくり

自治会活動部門
24年度優秀賞

真萱自治会
会長 平山 郁夫



地域の課題

真萱自治会は、津波や水害などの災害被害が少ない地域とされてきたため、防災に関する取り組みが疎かになっていた。

そのような中、東南海・南海地震が発生する確率が高くなってきているとの情報があるため、地域住民の防災意識の醸成を図ることが急務となっていた。

取り組み内容

① 防災危機管理組織の結成

平成22年度に、防災士を中心に自治会執行部、班長、組長などで防災危機管理組織を結成した。

② 真萱防災マップの作成

既存のハザードマップは、大まかから身近な情報が記載されていないことから、身近で防災や生活に役立つマップが必要と考え、真萱版を作成した。

緊急連絡先や、各班内の危険箇所、災害時に使用可能な井戸の所有者、

要援護者宅、浸水懸念場所、防災隣組、避難場所、避難経路など防災に関する身近な情報を掲載し、全戸に配布している。

また、マップの住宅には世帯主名を記入し、住民のコミュニケーションツールとしても使えるよう配慮した。

③ 防災隣組の編成

災害が発生したときに、避難場所である公民館までの避難経路への誘導、隣近所の声かけ、要援護者の救助等に対応するため、4〜5軒単位で防災隣組を組織し、まとめ役の組長を中心に行動してもらうことにした。

住民が避難場所に到着したら、組長は班長に担当の隣組の状況を報告し、班長は防災会長に、そして防災会長は報告内容によって対応するという連絡体制を確立させた。

災害時に組長がいない場合も、気心知れている隣組であれば、必要最低限の行動は取れると考えている。

そのためにも集会のたびに隣近所との付き合いや絆を大切にしようと呼びかけている。

④ 防災訓練の実施

防災危機管理組織の編成後、大分東消防署や、地元消防団の協力の下、毎年防災訓練を実施しており、防災講話、消火訓練、地震体験、心肺蘇生、救出訓練などを行っている。



消火訓練の様子



地震体験の様子

また、自治会婦人部による炊き出し訓練も実施しているが、この炊き出し訓練には毎回40名程度の女性が集まってコミュニケーションを深める場となっている。

活動の成果・今後の展望

このような取り組みの結果、住民同士の交流も深まり、向こう三軒両隣の良い関係の地域づくりができています。

訓練は災害に対する備えとしての役割だけでなく、自治会内のコミュニケーションを深める場としても重要な役割を担っている。

自治会は住民がより安全で、住み心地の良い生活を送るために結成されたものであり、その自治会活動を具現化したもののひとつが、防災会の活動だと捉えており、人間関係が希薄になりがちな今、住民同士の良好な関係を育むためにも、自治会活動は欠かせないと考えている。

今後も全住民が情報を共有し、お互いの顔が見える活動を目指していきたい。

元町石仏の維持管理と 後世への継承

自治会活動部門
24年度奨励賞

元町町内会
会長 古城 豎造



地区住民が石仏堂前で清掃している様子

地域の課題

1,000年の歴史を持つ元町石仏の維持・管理をいかに継続していき、後世へと継承していくか。

取り組み内容

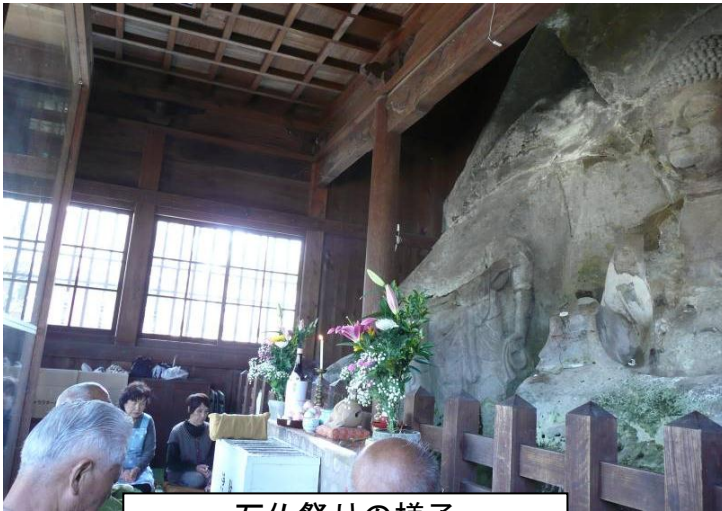
①石仏堂内外の清掃管理及び石仏供花の管理と樹木の剪定

昭和56年から、元町石仏の維持・管理を町内全体の取組みとして、地域の宝は地域で守るという意識を持ち、町内会加入世帯全戸で毎日交替しながら取り組んでいる。

また、町内は4組に分かれているが、各組の組長が各組の清掃担当表を作成し配布することや、清掃日記を作成することで、住民への周知徹底を図るとともに、実施状況が一目で分かるようにしている。

②石仏祭りの開催

年に1回開催するこのお祭りは、毎年4月に各班持ち回りで行うこととしており、担当になった班は、総出で準備から運営まで行なっており、コミュニティを活性化させるよい機会になっている。



石仏祭りの様子



活動の成果・今後の展望

長年継続してきたことにより、地域のみんなでやっていくんだという「地域の一体感」が養われていることを確信している。

地域の一体感は、清掃活動だけでなく、地域が取り組む各行事において見られ、地域で行事が行われる際には多くの地域住民が参加・協力し、地域コミュニティの活性化につながっている。今後の展望については、少子高齢化という、避けて通れぬ現実もあるが、

1,000年の歳月を経た古の遺産いにしえを後世に継承していくことが当地区住民の責務であると自覚し、今後とも石仏のPR・管理に努めていきたい。

また、マンションや借家に住む方の地域行事への参加が決して多いとはいえない状況にあるため、今後はそういった方々をどう巻き込んでいくかというところを課題に取り組んでいきたい。

子供たちに「ふる里」と思ってもらえるまちづくり

自治会活動部門
24年度奨励賞

高崎自治会
会長 米田 寛



「高崎音頭」を踊る高崎子ども会の子供たち

地域の課題

高崎は郊外に造成された大型団地であり、自治会員すべてが県内外から移り住んできた人たちである。

当時ここに移ってきた大人たちには不自由を楽しんでいた当時の懐かしみを帯びた、いわゆる「ふる里」が存在するが、高崎で生まれ育った子供たちには、そのような情景の「ふる里」がない状況である。

取り組み内容

高崎で生まれ育つ子供たちが、高崎を「ふる里」と思えるようなまちづくりを、「高崎音頭」と、宇佐市院内町あまりたに余谷21世紀委員会との「地域間交流」で進めている。

①高崎音頭

子供たちが「ふる里」と思えるまちづくりの一環として、毎年夏に開催する「夏祭り」の時にみんなで踊れる「高崎音頭」を作成しようということにな

り、自治会員からの応募で歌詞・曲・振り付けを全て作成し、平成16年度に完成、以後自治会行事の際に披露している。

② 地域間交流

平成14年に文化祭を復活させた際、宇佐市院内町「余谷21世紀委員会」との交流がスタートした。

夏祭りとは文化祭には、「余谷21世紀委員会」の人たちが野菜や果物を出品したり、院内童龍太鼓を披露したりするなどしている。

高崎からは余谷での田植えと収穫感謝祭に自治会や子ども会、老人親睦会が参加し地域間交流を進めている。

活動の成果・今後の展望

夏祭りのフィナーレを飾る高崎音頭総踊りの参加者も子ども会や高崎老人親睦会など、年々増加しており、大いに盛り上がっており、自治会主催の「敬老ふれあいの集い」でも子供たちが高崎音頭を踊って盛り上げた。

地域間交流では、田植えや稲刈りを

経験することでもうひとつのふる里作りにつなげている。
これらの活動は、高崎で生まれ育った子ども達のふる里づくり、地域愛を育むための一助となっている。
今後も高崎で育った子供たちのふる里づくりに取り組んでいきたい。



夏祭りで披露された院内童龍太鼓



院内町余谷から届く新鮮な野菜

小規模自治会での 安心・安全なまちづくり

自治会活動部門
24年度奨励賞

蕨野自治会
会長 後藤 重文



地域の課題

蕨野自治会は、東植田校区りょうぜん霊山の中腹に位置し、世帯数は17世帯、人口64名、うち高齢者が26名という少子高齢化の小規模自治会である。

このような状況において、住民が安心・安全な生活をするために、地区の行事・活動を改革する必要があった。

取り組み内容

①自治会会則、記録簿等の整備

自治会会則や細則を整備して全戸に配布したことにより、自治会事業の全容を周知徹底することができた。

また、記録簿を作成し、当番は活動の内容等を記録簿に記入し、次期担当者に引き継ぐようにしたこと、成果や課題の引き継ぎがスムーズになり、自治会員としての責任・自覚が深まった。

②親睦を深める活動

おひまち
御日待、春祭・秋祭、共同作業など

様々な行事を実施しているが、全ての行事において全世帯参加が定着しており、住民の総力でまちづくりを行なっている。

また、ボランティア活動をしている自治区内の若者を中心に、他の地区からも地区内の荒廃地を開拓・作物栽培する後継者が育っている。

③安心・安全に暮らす環境整備活動

市道の維持管理として、共同草刈作業、木・竹等の伐採活動・側溝の清掃に定期的に取り組んでいる。

また、公共上水道が新設される平成21年までの期間は、簡易水道の維持管理に全住民が一丸となって取り組んでいた。

活動の成果・今後の展望

以前の自治会の事業は記録簿がないため、思い付きが多く、困惑することが多かったが、自治会則を作成し、全世帯に配布したことにより、自治会活動の内容を周知徹底することができた。また、新規作成した各種記録簿に事業の内容を記載し、次の担当者へ引き

継ぐため、成果や課題の共有ができて、運営がスムーズになり、自治会の事業は住民全員で携わっているという自覚ができた。

今後も少子高齢化が進行すると予想されるが、「自分たちの自治会は自分たちで守り、安心・安全なまちづくりを一步でも前進できるように取り組んでいきたい」と思うようになった。

今後もこの活動を継続・拡大し転入者が増え、地域が活性化することを願う、「皆がこのまちに住んでよかった」といわれるような自治会にしていきたい。



親睦を深める自治会員

地区内の環境美化活動を通じた地域活動の活性化

自治会活動部門
24年度奨励賞

廻栖自治会
会長 佐藤 洋昭



植付けを行ったマリーゴールドとヒマワリ

地域の課題

廻栖自治会は、野津原地域の東部に位置し、旧大分市に隣接する七瀬川流域の自治区である。

会員は世帯数60、人口160名で高齢化率41%の過疎地域となっている。自治会では、住みよい環境づくりに取り組み、事業を拡大しているが、高齢化などの要因により自治会活動への参加者が年々減少傾向にある。

また、花の育苗等に携わる人材の育成も必要となっている。

取り組み内容

①花の里づくり

マリーゴールド5,000本、ヒマワリ3,000本の種子を、公民館の環境部が呼びかけをし、「種まきから育苗管理」までを行い野津原地域の各自治会への配布や、子供会と一緒に道沿いの植付け管理を行っている。

菜の花づくりにも取り組み、散策道や休憩所を設置するなど、鑑賞者に「おもてなし」を行っている。

②環境整備・美化活動

廻栖地区を流れる河川の草刈・清掃活動を年2回実施し、地区内の河川敷には彼岸花の鑑賞ができるように毎年球根を植え付けており、その面積は毎年拡大している。

また、竹林の整備を行い、自治会周辺の環境整備に取り組んでいる。



道路沿いの植付け作業



竹林整備の様子



彼岸花の植付け作業



整備された竹林



満開の彼岸花

活動の成果・今後の展望

マリーゴールドとヒマワリについては、他の自治会にも苗の配布をしたり、看板の設置をしたりすることにより、取り組みの輪が広がっている。

環境整備を通じて自治会内や子供会とのコミュニティが図られ、道路沿いに花いっぱい運動が展開され、環境美化に対する意識が高まり、車上からのポイ捨ても減少することを願っている。今後も住みよい環境づくりを目指して地域の活性化に向け積極的に取り組んでいきたい。

で 報 活 性 化 を 報 告 活 性 化 を 報 告 活 性 化 を 報 告 活 性 化

自治会活動部門
24年度応募事例

王子中町東自治会
会長 安部 鋼一郎

地 域 の 課 題

自治会活動や町内行事に対する住民の関心が低く、地域にとつて大事な防災訓練でさえ参加者が少ないという理由で休止したままになっていた。

自治会活動を活性化して住民同士の交流を深め、相互に助け合う体制を築くことが喫緊の課題であった。

取 り 組 み 内 容

自治会活動を活性化するにはすべての住民が町内の課題や行事などの情報を共有することが大事だと考え、平成22年4月から毎月「町内会報」を発行することとした。

会報に掲載する情報の収集は、自治会役員・クリーン推進員・健康推進員・民生委員など、10名程度で構成する役員会を定期的開催し、それぞれの視点から見た地域内の課題を報告してもらうことで行なっている。

また、住民からの要望などはすぐに解決策を検討し、解決手段・進捗状況

をわかりやすく会報で知らせ、急を要する課題は現地に出かけて取材を行っている。

活 動 の 成 果 ・ 今 後 の 展 望

会報が回を重ねるごとに自治会活動に関心を持つ住民が増えた。

取り止めになっていた防災訓練は隣の西春日町と共同で開催し、会報で参加を呼びかけた結果、町内からは40名を超える参加者があった。

また、ごみの出し方にも問題があったが会報で繰り返し注意を喚起することで改善され、振り込め詐欺も繰り返し注意を促すことで現下では被害は発生しておらず、会報が町内の安心安全に多大な効果をもたらしている。

会報による情報共有化の効能で、地域の出来事に気を配る住人が増え、助け合いの精神が芽生えてきた。今後も住民の心に届く情報を発信することに努め、皆が仲良く暮らせる地域づくりに貢献したい。

新旧住民の交流・融和を図る 2つの取り組み

自治会活動部門
24年度応募事例

東大道1丁目自治会
会長 赤松 成

地域の課題

大分駅周辺の開発に伴う区画整理により、地域から出て行く人も多く、青年団・老人会・子ども会とそれぞれ急速な人材不足に陥っていった。

また、新たにマンション等が建設され新規に住民が入居し、こういった人たちにも自治会活動に参加してもらうことが課題となっていた。

取り組み内容

①敬老の日のための餅つき大会

毎年9月に、青年団と子ども会が協力して餅つき大会を開催しており、ついた餅は、子どもたちが自治区内の高齢者に配布している。

②クリスマスお楽しみ会

毎年12月に、老人会と子ども会が協力して、子どもから高齢者までが年齢の垣根を越えて楽しめるクリスマスお楽しみ会を企画・運営している。

それぞれの行事の際には子ども会・青年会・老人会が協力し、一軒一軒、

電話連絡をして「決して無理強いはしない」ということに注意をしながら、参加呼びかけを行なっている。

活動の成果・今後の展望

地道に声かけを行なったことにより、転入してきた住民の多くが子どもを連れて行事に参加してくれるようになり、地域の活性化につながっている。

活動に参加することで近所が顔見知りになり、子どもからの挨拶が増えるなどの広がりを見せている。

また、行事に参加した人が地域活動に興味を持ち始め、自治会や各種団体の役員に就いてくれるようになったことで、人材不足という課題も解決に向かいつつあり、会議の場などで新しい意見が出るなど、慣例で運営してきた自治会の運営にも良い影響を与えている。

今後は、自治区内に完成するシンボルロードを活用した新たな行事を新旧住民一体となって考えていきたい。

近隣者と助け合う絆

自治会活動部門
24年度応募事例

荏隈町自治会
会長 山口 勇

地域の課題

荏隈町自治会は、町内の高齢化が進み、65歳以上の人が50%近くになり、自助・共助・公助の中でも、共助のもつ重要性が高まってきており、近隣者と助け合うことができる絆づくりが喫緊の課題となっていた。

取り組み内容

町内三大イベントを通じて、全体の絆づくり、親睦の輪を深める。

① 盆踊り大会

初盆家庭を招待し、町内公園で大会を開催、参加者・来場者に抽選番号入りの団扇を配布し、抽選会を実施するなど盛り上げるための工夫をしている。

② 町内親睦旅行

役員会で内容を検討し、楽しさ・面白さ・有意義さを確認し、活動参加への呼びかけ運動につなげた。

③ 町内芸能文化祭

絵画・書・写真・フラワーアレンジメント・盆栽・工芸作品・手芸・和人数等の作品展と、謡曲・舞踊・小学生の合唱・フラダンス・太極拳・カラオケ・詩吟などの芸能大会を行い、交流を深めている。

活動の成果・今後の展望

行事に参加することで、活動に無関心だった人にも町内会の良さや楽しさが伝わり、近隣との絆づくりの一助となった。

今後もまちづくりのために個々の絆づくりに関与する事業を展開していきたい。

また、共助の力が災害時の助け合いにも、被害を最小にとどめるためにも大切であり、自主防災組織とも有効に結びつくような活動を進めていきたい。

ゴミステーションの 美化活動

自治会活動部門
24年度応募事例

三佐二区自治会
会長 岸田 孝義

地域の課題

三佐二区の資源ゴミ等集積場は、元三佐小学校跡にある三佐仲よしプールの入り口にあり、約370戸が利用している。

しかし、ゴミ出しの規則を守らない人も多く、まるでゴミ溜めのような状態であった。

クリーン推進委員会を中心として再三注意を喚起していたが、一向に改善されなかった。

取り組み内容

平成19年度に、ゴミの分別方法が変わることを機会に、この問題を地域全体の問題ととらえるように班長会に諮り、ゴミ収集カレンダーを基にして当番を決めて、収集日の回収車が来る前にゴミの点検・整理をするようにした。当番に出た人は、全部のゴミを点検し、違反物があれば取り除き、適正な日に出すようにしている。当番から分別ができていないと連絡

があれば、啓発の印刷物を作成し、各戸に回覧している。

当初は三佐二区の280戸だけで取り組んでいたが、23年度からは同じステーションを使用している三佐三区の90戸も参加している。

なお、高齢者のみの家庭や病気がちの人の家庭は当番から外す配慮をしている。

活動の成果・今後の展望

活動を始めた当初は、分別ができておらず当番の人の負担も大きかったが、次第に改善し、当番の人数を減らしても対応できるようになった。

ゴミ収集の担当者からも、「こんなきちんと分類しているところは他にはない」という言葉をもらい、取り組みの成果が現れている。

当番がいなくても住民が分別してゴミが出せることが望ましいことであるが、これまでの取り組みの成果から見ると、近い将来に必ず実現すると思っている。

地域全体で取り組んだ 「雄城台住宅地創立 30周年記念事業」

自治会活動部門
24年度応募事例

雄城台住宅地自治会
会長 浅川 和憲

地域の課題

高齢者や共働きの世帯が多くなってきた中で、運動会や文化祭などの自治会行事も参加者が固定される傾向にあり、住んでいる地域や隣人とのつながりが希薄になっている。

取り組み内容

自治会設立後初めての一大イベント「雄城台住宅地創立30周年記念事業」を実施した。

自治会の新旧役員と各班からの推薦者、関連団体の役員など41名からなる実行委員会を結成し、記念式典・芸能大会・模擬店などを行った記念大祭、桜・芝桜を植栽した記念植樹、過去の資料や写真をまとめた記念誌の発行を行った。

なるべく多くの人が参加できるように、自治区内の公園と公民館を利用しすべての行事を行い、堅苦しくならないうように来賓は呼ばず、自治会のみで実施した。

また、多くの人に認識してもらうため、子供たちが作成したポスターを各所に展示したり、回覧を度重ねて行ったり、事前に抽選券や記念品を配布するなど、大々的に広報を行った。

活動の成果・今後の展望

大祭は天候にも恵まれ、参加者数・模擬店の売り上げなどすべての面において計画を上回ることができ、高齢者や子供たちにもいい思い出になる行事を達成することができた。

芝桜の植栽も高齢者などを含め多くの人が集い、和気あいあいとした雰囲気の中でふれあいを図ることができた。これを機会に多くの人たちの交流が進み、自治会活動に積極的に取り組んでくれることですみよい地域づくりが進むことを期待している。

今回の記念事業を参考にして、近隣の自治会でも記念事業を行う計画が進められており、取り組みが広がりを見せている。

子ども会と連携して 取り組みまちづくり

自治会活動部門
24年度応募事例

田尻グリーンハイツ
東区自治会
会長 甲斐 弘美

地域の課題

少子高齢化が進むなか、敬老会・運動会などの自治会行事をどのように継続していくか。

また、公園や団地周辺の法面のりめん、通学路の草刈に対する人員も不足しがちである。

取り組み内容

少子高齢化の進展により、自治会活動がますます難しくなる中、敬老会や運動会を地域の重要な行事として位置づけ、子供会に協力・参加を呼びかけ、賛同を得ることで参加者の拡大と行事の活性化を図り、自治会と子供会が一体となって取り組むこととした。

また、草刈の人員不足に対応するため、クリーン推進員を中心に公園や周辺団地の法面等の雑木の除去・草刈・ゴミステーション整備の作業参加者を自治会員に回覧や呼びかけで広く募った。

活動の成果・今後の展望

自治会と子供会が連携して行事や活動に取り組むことにより、多世代の交流が進み、盛り上がりや運営面において多大な成果をもたらしている。

また、草刈についても、多くの住民の参加があり、共同作業による作業効率のアップと地域住民の自らの地域は自らの手で美しくするという意識の醸成が図れた。

今後とも、敬老行事や運動会、清掃、草刈等の行事において、多くの住民が積極的に参加・協力し、ご近所の底力で取り組んでいく当自治会のよき伝統を維持していくとともに、一年でも長く続けていき、継続は力なりをモットーとしていきたいと思う。

高齢者を地域で支える 仕組みづくり

自治会活動部門
24年度応募事例

ふじが丘東区自治会
会長 安部 信生

地域の課題

団地ができて40年、急激に高齢化が進み、高齢化率は36%を越す状況となった。

一人暮らしの高齢者も増加し、24年度の年頭から、ゴミ出しができない高齢者も出てきており、民生委員だけでは目が届かない状況となっている。

取り組み内容

ゴミ出しができない高齢者のために、4名2組からなる「ふれあいパトロール」を選り、毎週火曜日（可燃ごみの日）に交代で28軒の独居高齢者宅を訪問している。

出合い・ふれあい・助け合いの精神で、ゴミの持ち帰りだけでなく会話を交わすことで、困りごとは無いか、健康状態はどうかといったチェックも行っている。

引きこもりがちな人には、自治会の卓球・ランドゴルフ・ペタンク・老人会の映写会・誕生日会・カラオケ等

にも誘い、健康寿命を延ばそうと訴えている。

また、「福祉協力員」を独自に創設し4名の方に就任してもらった。

28軒の独居高齢者を一人当たり7人受け持ち、民生委員の手助けをし、見守り訪問や炊き出しの配達などを行っている。

なお、「福祉協力員」には、自治会長・副会長2名・会計の役員手当を合計で月6,000円減額した分を手当として交付している。

活動の成果・今後の展望

現在は「ふれあいパトロール」の訪問を心待ちにしている高齢者も多く、自治会活動への参加者、特にランドゴルフの誕生日会などの参加者が増えている。

独居高齢者を組長・ふれあいパトロール・福祉協力員・民生委員・自治会長など、みんなで見守る体制ができてきたので、今後も試行錯誤を行いながら、すばらしい自治会を作っていくたい。

自治会活動部門 24年度応募事例

自治会活動部門
24年度応募事例

宮崎台自治会
会長 岡部 敏明

地域の課題

自治会内の高齢者が増加するに伴い、自治会活動の見直しを検討し、その過程で自治会費の軽減の意見が上がった。そこで、自治会運営費の見直しを行った結果、防犯灯の電気料、修繕費が年々増加し、自治会運営費を圧迫していることが判明した。

取り組み内容

節電が叫ばれている昨今の社会情勢も鑑みて、電力消費量が少なく、しかも長寿命で明るいLED防犯灯を導入することを自治会で決定した。

自治区内の防犯灯約120灯の取替えを一度に行うことは難しいため、平成23年度に5カ年の計画を立て、全数取替えに取り組んでいった。

計画では、全数取替えを行うと、約80%の節電効果、約10%の自治会費削減が見込まれている。

また、取替え費用の自治会員負担を減らすために、大分市からの補助金を

活用した。

活動の成果・今後の展望

23年度に27箇所、24年度に21箇所の取替えを行い、50%程度の節電効果を得ることが出来ている。

取替えを行った地域では以前に比べ、予想以上に明るくなり防犯対策に役立っており、取替えをしていない地区から早く取り替えるように要望が出ている。

自治会費の軽減から考えた防犯灯の取替えが、節電にもつながり、安全で住みよいまちづくりも進んだことは喜ばしいことである。

「人のたがやし」で協働意識の醸成を図る

自治会活動部門
24年度応募事例

細八丸自治会
会長 姫野 次郎

地域の課題

急激な高齢化と人口減少により、自治会内の活気、やる気が失われ、その結果、山林や農地は荒廃し、同時に人々の交流も減少したことで、味気ないコミュニティになり、地域崩壊の危機に瀕している。

このため、「人のたがやし」を行い、協働意識を醸成することが急務となっている。

取り組み内容

大分市が取り組んでいる市民協働を基本とした取り組みに積極的に参加している。

「環境美化」

第2日曜日に河川清掃、草刈を実施するクリーン運動や、毎週土・日曜日に不法投棄防止パトロールを実施している。

「衛生」

害虫駆除のため、消毒を年4回実施、また、ホウ酸団子を作り、全戸配布を

実施している。

「健康づくり」

健康づくりのため体操の講習を受けたり、講話会を開催したりしている。

「高齢者活動」

病院や施設への訪問を行い、高齢者の生きがいづくりを進めている。

また、「ふるさと会」を結成し、地区内外の耕作放棄地の草刈を請け負い、環境美化に貢献したり、有価ゴミの回収に地域ぐるみで取り組み、環境意識の向上と住民の交流を図ることが出来た。

活動の成果・今後の展望

次の世代は、進行する世帯減少で地域の存続が困難となる局面が想定されるが、「おおいた家族」という意識で、ともに育むネットワークの構築が望まれる。

農産物品評会の開催による地域内交流の促進

自治会連携部門
24年度優秀賞

細区連合自治会
会長 岩田 和男



農産物品評会の様子

地域の課題

細区連合自治会は、3自治会で構成された約270戸の連合自治会であるが、住環境整備の遅れからか、若者たちは都市部へ出て行き、少子高齢化が年々進行し、近隣とのつながりも希薄化するなど多くの課題を抱えている。

取り組み内容

自然に恵まれた当地区ならではの取り組みとして、農地を活用して栽培した野菜・果樹等や鮮魚、加工品、手芸品など多種多様な品物を一堂に集め、それぞれに取り組んできた成果を発表し、お互いの技術の向上や住民相互のふれあいの場となる「農産物品評会」を昭和24年から開催している。

農産物品評会の出品に当たっては、長期に渡っての準備が必要であり、特に農産物の栽培は、病害虫や天候にも左右されるところも大きいですが、出品者の熱心な努力で乗り越えている。



農産物品評会の様子



表彰式の様子

また、審査も行われ、優れたものは金・銀・銅賞をそれぞれ授与して表彰している。
 最後には出品された農産物等を参加者に競売しており、毎回大いに盛り上がっている。

活動の成果・今後の展望

出品に至るまでの出品者の苦労は筆舌に尽くし難いが、種を蒔き、日々成長する過程を見ることは出品者にとっても大きな喜びであるとともに楽しみであり、高齢者にとつての生きがいになっている。

実施に当たっては区報や回覧板による広報を行い、実行委員会、関係機関との調整、会場準備など住民それぞれが役割を分担して取り組んでおり、地区内のコミュニティの形成のために重要な行事となっている。

平成24年で63回目を迎えたこの農産物品評会だが、出品する区民は年々高齢化しており、今後はどのような形でいけば継続的に開催できるのかを検討するとともに、地区からの転出者をついていかなくては呼び戻すかが地域の課題となっているが、前向きに取り組んでいきたい。

地域内の各種団体が連携して取り組むまちづくり

自治会支援部門
24年度優秀賞

特定非営利活動法人
福祉コミュニティ KOUZAKI
理事長 高橋 政行



多くの人で賑わう神崎海水浴場

地域の課題

1980年代ころから、核家族化や共働きの世帯の増加により、供養踊りや敬老会などの地域の伝統行事が衰退してくるなど、地域力の低下が見られるようになった。

また、新産業都市第二期計画による8号地の埋立問題に対して、地域社会の意見が二分した後遺症も色濃く、地域が分裂状態であった。

取り組み内容

先人たちが築きあげてきた神崎を次世代につないでいくため、神崎地区内の自治会を始めとした各種団体と、連携・協力する中で、「花いっぱい神崎を」「子どもの声が響き渡る神崎を」「支えあいの神崎を」を3本の柱として活動している。

(1) 環境問題への取り組み

自治会や各種団体と連携し、ふるさととの海・山・川という地域財産の価値の再認識、保全啓発活動を行っている。



子猫川での生物観察会の様子



花作り活動の様子

(2) 花づくり活動
 地域住民と一体となって、地域6箇所の花壇への花植え・管理や中学校土手などへ植栽されたアジサイの維持管理を行っている。

(3) 小地域ネットワーク活動
 高齢者世帯や、日中、高齢者のみとなる世帯が地域社会から孤立することなく暮らせるように、自治会単位で見守り・声掛け活動を行っている。

(4) 軽度生活支援活動
 庭の草刈、植木の枝打ち、買い物など軽度な支援活動を有償ボランティアで実施し、高齢者が求めるちよつとした支援を受けやすいようにしている



地域サロンでの団子汁づくり



石棺様まつりの様子

(5) 石棺様まつり
 地域内にある国指定の史跡、築山古墳を文化財として保護する一方、地域住民の精神的シンボルとして位置づけ、住民が楽しめるイベントとして開催している。

(6) 人権学習
 人権講演会を地区で開催し、学習を深め、地域での共有を行っている。

活動の成果・今後の展望

敬老会などの自治会主催行事とNP
 ○法人による活動をマツチングさせることにより、地域活動に対する関心を高め、参加しやすい環境をつくり、伝統行事の継続と地域活動の活性化を図ることができた。

活動は住民自らの手で責任を持って運営し、多くの人を巻き込み、成果は皆で享受することを基本原則としており、個別の活動に参加する人々が地域全体の発展に寄与することを自覚し、地域貢献への達成感を得ようとしている。

これまでの活動により、神崎地域は人と人のつながりが強くなり、退職後に神崎地区に居住することになった新たな人材が自治会長、あるいは老人会長となり、地域の世話役として活躍する礎となっている。

また、そういった人々の新たな力が自治会を活性化させている。

ものづくりや農作業を通じて地域の連携を図る

自治会支援部門
24年度奨励賞

チーム桃園
代表 福間 敬之輔

地域の課題

桃園校区においても地域コミュニティが希薄化しており、小学校児童を日常的に見守り、社会体験や生活体験を支えることが出来る地域住民が少なくなってきた。

また、地域が住宅地・工業地であるため、子どもたちが日常生活において米や野菜の生育過程を学習・体験したり、ものづくりの体験をしたりすることが少なくなってきた。

取り組み内容

地域住民で「チーム桃園」を結成し、桃園小学校と連携して小学校校横の休耕田を利用した米作り・野菜作りを行い、また、校区や自治区の公民館での、ものづくり等の体験活動を通じて、地域住民と桃園小学校児童との交流を図り、子ども達の情操教育、見守り活動を推進している。

活動の成果・今後の展望

この活動を通して学校関係者や小学校児童のみならず、PTAや地域の方々などがお互い顔見知りとなった。その結果、地域活動に参加しやすくなり、地域行事の参加者が増加しただけでなく、お互いに挨拶が交わされる環境ができ、挨拶運動や子ども見守り運動などの自治会活動にも広がりが見られ、自治会活動が活性化された。また、農作業を通して子ども達が感受性を育み、協調性や自主性を身につけることもできた。



農業体験をする
「すくすく農園」の様子

花作りを通じて地域コミュニティの再生を図る

自治会支援部門
24年度奨励賞

尾津留 花愛好会
代表 仲摩 正満

地域の課題

地域住民のふれあいや交流の機会の減少によるコミュニティの衰退。

取り組み内容

花愛好会として、地区内にある育苗センターの維持管理を行っている。

育苗センターで育てた苗はプランターに移植し、自治会の各班に40個ずつ配布するほか、地域の人にも配布しており、その後の水やり等の管理は各自で行ってもらっている。

育苗センターには、地域の小学生に一枚の木製パネルに絵を描いてもらい、その絵を育苗センターに展示することで地域の人はもちろん、小学生も育苗センターに興味を持ってもらうようになっている。

また、老人クラブを中心に廃品回収を行い、その収益金の一部を活動資金に充て、活動の手助けをしている。

活動の成果・今後の展望

花の苗を配布する際には多くの人々が育苗センターに集い、ふれあいの場となっている。

また、小学生も育苗センターに来て作業の手伝いをしてくれており、小学生と地域の人との交流も生まれている。近年、地域で共同作業をする機会というものが減少してきているが、育苗センターでの管理作業や、プランターに植えた花の水遣り、草取りなどの作業を通して、自治区にまとまりが出来る。



こんなこと、あんなこと! 自治会・町内会のおもな活動

いざという時の助け合い

火事や地震など災害はいつ起こるかわかりません/地域での見守りや、防災訓練を行い、いざという時に、頼れるご近所の絆づくりに取り組んでいます。



防犯灯の設置・管理

夜間、暗い道や人通りの少ない道を安心・安全に通行できるように防犯灯を設置して、管理を行っています。



ごみステーションの設置・管理

快適な生活をするうえで欠かせないごみステーションを設置して、管理を行っています。



地域ぐるみで生活安全

空き巣、不審者対策として地域住民による「自主防犯パトロール」、児童生徒の登下校時「子どもの安全見守りボランティア」を行っています



人と人とのふれあい

お祭りや運動会など様々なイベントが行われています。また、子ども会や老人会なども、地域の大切な交流の場となっています。



自治会・町内会
に入って
ご近所の人と
知り合いになろう!



みんなで住みよいまちづくり

みんなで
入りましょう
自治会・町内会



大分市では自治会・町内会を応援しています!

今、日本では、孤立・無縁が社会問題になっています。
ここ大分市では、自治会・町内会での活動を通じて、地域の人みんなで
協力し合い、支え合いながら住みよいまちづくりに取り組んでいます。
あなたもぜひ自治会・町内会に加入しましょう。

大分市 市民部 市民協働推進課 (電話 5 3 7 - 7 2 5 1)